

復興支援フォーラムニュース No.35

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先 今野順夫(tkonno67@gmail.com) 中井勝己(024-548-8313)>

第32回フォーラム（「震災復興における高校教育の現状と課題」／齋藤毅氏）で寄せられたご意見等。（2013. 3. 7）

★今回、震災後、高校教育が直面している困難や課題について知る機会を持てた。高校生が将来の不安を抱えながらも、意外なことに原発を容認する姿勢のあることについて、肝心な問題を真正面から議論できる教育環境の整備が必要だ。（K. M）

★生徒に放射能に対する不安があるかアンケートをとったところ、女子の方が不安を抱えている割合が高く、将来子どもを持つことへの不安が数字に表れた形だったが、その不安をどのように取り除いてあげたら良いのか悩んでいます。しかし、日常的には、放射能に対する慣れというか、あきらめがあり、話題にしにくい状況（今さら？）というような感じがあります。放置する（生徒の不安を）わけにはいかないが、では具体的にどうするのか、県の指針もないし、このままなかったことになってしまうのが怖い気がします。（Y. A）

★高校の詳しい実態紹介で、幼稚園・小学校・中学校との異同・対比を意識し、青年前期層のことについていろいろ考えさせられた。おわりの「今後の課題」の部分では、大きな社会・時代の激動・転換の中での高校生の深部での変化と、その方向、その位置づけを考えるヒントがもう少し欲しかった。豊富な事実・事例の挙示という点では、大変ありがたかったが、少々、現象論に終始したきらいがある。（S. I）

★学校教育でも、弱いところほどひどい目に遭うと感じた。学校はたいてい保守的に運営されるので、非常時の対応は苦手なのでしょう。やる気のある先生ほど気の毒だ。（Y. I）

★原発事故を含む災害をどのように観るか？その対応過程で、人間が暮らすための多様な知見を得て、未来をつくるのだらうと思う。親が「帰って来なくてよい！」など福島を否定する（放射能問題はむずかしいが）。一生に一度と語られるこの機会を活かすため、親・地域・教育界（教員文化）・子供との融合する姿を講義の内容では見つけることができなかった。「未来暗し」と覚悟して多様な問題を学んでゆこうと思いました。他者との対話が起きない事情がある悲惨さの一例を知りました。（T. S）

★昨年12月、職場の教研で私の実践報告を行いました（職場では38年間、校内教研集会を、年2回実施しています）。今の学校現場（受験体制）の中で、時間をやりくりして、「原発」、「放射線」の実践をするのは、なかなか困難があります。本来なら、「総合」の時間などを使って、じっくり取り組めればいいのですが……。ささやかな取り組みにしかならないのがもどかしい！と常々思っています。でも受験体制の中では、一石を投じる実践になったか、と自

分では思っています。(K.F)

★震災によって生じた子ども達の負担、ストレスを改めて感じました。バネにすることで前に進んで欲しいと願うばかりです。避難が長期化する中で、サテライトの在り方を再度見直すことが必要かとも思える。(T.I)

★津波被害とは違う難しい問題をかかえる原発問題・事故被害の子ども、教育の場での特別の困難を改めて感じた。福島県教委の体質・・・県民の政治不信におちいる原因の1つにもなっていることは、少し知っていたつもりだったが、もっと深く、広く、記録しておくことが必要と感じる。(K.S)

★客観的に、データがあるともっとよかった。資料①の「高校生の意識調査」で、発電所の設問については、原発の多かった福島県の「シガラミ」も影響していると思います。(M.T)

★被災時およびその後の教育現場における現状と問題点について、解りやすくご講演をいただきまして、感謝申し上げます。(K.F)

★高校の教員の方の視点は新しく、なるほどと思うことがたくさんありました。また高校生が、今回の震災について、どのように受け止めたかも、非常によく分かりました。(S.O)

★震災があってもなかなか教育内容が変わらない。答えのない問いに答えを探させるような生徒を育てていく必要がある。エリートが起こした事故、学び方を変えていかなければならない。情報をうのみにせず、自分の頭で考え、発言する、人の話をじっくり聞く、対話する、意見の違う人と一致点を見つけ出す。いのちと暮らしにとってよいのかという物差しで、善悪の判断ができ、行動できる生徒を育てたい。今年度は、授業や文化祭で、全国や地域の人、仮設住宅の方、いろんな人にお世話になって、一緒に生徒たちと学んでいる。3/10 FM ふくしま 18:30～で少し生徒が報告します。(Y.S)

★県の教育に対する課題が多く、解決が難しいことが分かった。県からの支援を期待するだけでは、「フクシマの教育」は作れないことが明らかになったのではないかと。より豊かで多様なネットワークを形成し、子どもための教育を整えていく必要があると感じた。(K.S)

★A高校のOECDスクールの報告を以前聞いたが、納得できかねることがあった。この時に、浪江小の「ふるさとなみえ科」の実践を聞いたが、これは高校でも応用できるのではと思った。(Y.I)

=====

【予告】

第34回ふくしま復興支援フォーラム」(2013年3月22日(金) 18時30分～)

テーマ 「放射線被曝とその影響について」

報告者 齋藤 紀 氏(医師)

会場 福島市アクティブシニアセンター「AOZ(アオウゼ)」 大活動室1
(MAX ふくしま4F/福島市曾根田町1-18)

=====